



市章

卍（まんじ）は、藩政時代に津軽氏の旗印として用いられた由緒あるもので、功德・円満の意味で、吉祥万徳の相を表すといわれ、明治 33 年 6 月から旧弘前市の市章として用いられてきました。

そして、平成 18 年 2 月 27 日の市町村合併に伴う新たな市章として、平成 18 年 11 月 15 日に新たに制定されました。

地名の由来

弘前（ひろさき）

弘前は、以前「高岡」とか「鷹岡（鷹ヶ岡）」と呼ばれていたそうです。

これは、城地が高台にあることや、昔は鷹が多く生息していたというところに由来があるようです。

高岡が弘前に改称された理由は、はっきりしていません。ひとつには、北海道への海上交通の要地で、その地勢が広大なところから「広崎」と呼び、それが「弘前」になったという説や、十三岬から松前（北海道）までの海を「尾閼（びろ）」と呼び、十三岬を「尾閼ヶ崎」と呼んでいたのをとって「弘前」としたという説のほか、イギリス人チェンバレンが唱えたアイヌ語に起源があるという考え方などがありますが、いずれも明らかではありません。

「信枚君一代之自記」には、「弘前」という名称が用いられたのは、寛永 5 年（1628 年）の 8 月 20 日からと記録されています。

（参考「弘前市史 藩政編」）